

JA8033 ダッカ ハイジャック政府派遣特別機 添乗整備記録

昭和52年10月

ダッカ日航機ハイジャック事件 概要 (Wikipedia より)

1977年9月28日、フランスのパリ、シャルル・ド・ゴール国際空港発東京国際空港(羽田)行きの日本航空機472便(DC-8-62型、JA8033、乗員14名、乗客137名、犯人グループ5名)が、経由地のインド、ボンベイ空港を離陸直後、拳銃、手榴弾等で武装した日本赤軍グループ5名によりハイジャックされた。

同機はバングラデシュのダッカ国際空港に強行着陸、犯人グループは人質の身代金としてアメリカドルで600万ドル(当時の為替レート<1USドル≒約266円)で約16億円と、日本で服役及び勾留中の、メンバー・日本赤軍に加えようと目をつけた囚人(新左翼活動家や、「獄中闘争」を評価した一般刑事犯)9名の釈放を要求し、これが拒否された場合、または回答が無い場合は人質を順次殺害すると警告した。この際、アメリカ人の人質を先に殺害するという条件が付いており、今後の日本の対応にアメリカへの外交的配慮があったとする見方もある。

バングラデシュではこの事件中に、軍部中枢を含む政府首脳がこの事件の対応に追われている隙間を縫って軍事クーデターが発生するなど、現地は緊迫していた。日本国政府は議論の末、10月1日に福田赳夫首相(当時)が「人命は地球より重い」と述べて、身代金の支払い及び、超法規的措置としてメンバーなどの引き渡しを決断。身代金と、釈放に応じたメンバーなど6名(3名は拒否。内訳は、赤軍派系連合赤軍メンバー1名と、系列外の新左翼活動家2名)を日本航空特別機でダッカへ輸送した。

なお、検事総長と法務大臣はこの様な「違法措置」の施行に対して強硬に反発し、閣内不一致を恐れた福田は福田一法務大臣を更迭した。

10月2日、人質との交換が行われ、乗員乗客のうち118名が解放された。10月3日、残り的人質を乗せたままハイジャック機は離陸、クウェートとシリアのダマスカスを経て人質17名を解放、アルジェリアのダル・エル・ペイダ空港に着陸し、同国当局の管理下に置かれた。この時点で残りの乗客乗員も全員解放され、事件は終結した。

この事件における日本の対応は、一部諸外国から「日本はテロまで輸出するのか」などと非難を受けた。そのため世界各国では、この様な事件に対処する為、対テロ特殊部隊の創設が進められた。

同年、日本政府は、この事件を教訓として、西ドイツの特殊部隊「GSG-9」(後述)を参考に、ハイジャック事件に対処する特殊部隊を創設した。この部隊は近年増設され、特殊急襲部隊(SAT)と呼ばれている。

ハイジャック機その後

ハイジャックされた DC-8-62 型機 (JA8033) はその後日本国内へ戻され、ハイジャック犯人による爆弾の爆発実験により一部が破損した機内トイレの修繕や、機内清掃などが施された後に通常運航へと戻され、1984 年まで日本航空で使用された後にメキシコのアエロメヒコ航空へと売却された。

ダッカ日航機ハイジャック事件 ハイジャック犯人グループ

丸岡修

和光晴生

佐々木規夫

坂東國男

西川純

ダッカ日航機ハイジャック事件 「奪還」された囚人

奥平純三 (日本赤軍。奥平剛士の弟)

城崎勉 (共産同赤軍派。大菩薩峠事件で逮捕)

大道寺あや子 (佐々木の出身母体である東アジア反日武装戦線)

浴田由紀子 (同上)

泉水博 (獄中者組合。一般刑事犯)

仁平映 (同上)

添乗記録手記

安藤 嘉道

10.01 02:30 メンテナンス センター出社

対策本部集合

09:30 結団式 オペレーションセンターで社長訓話

06:30 特別機 JA8031 羽田出発

釈放犯人と一緒に搭乗、皆沈痛な表情

11:30 ダッカ着

H/J 機 JA8033 が見える。平静の様子だ、Run Way の端に駐機している。Eng を一発 Run しているようだ。特別機 8031 は Run Way の他の一端にて Eng を止め GPU が取り付けられた。暑い汗が流れてくる。エアコン車を要求、取り付けられる。30分位してエアコン車オーバーヒート、エアコン車は2台しか無いとのこと。暑い、じっとしていても汗が流れる。しばらくして、第4 Eng を回し、飛行機のエアコンを作動させる。やっと生きた心地になる。

VHF で Tower 及び H/J 機との交信開始、交信をモニターする。HF SSB で東京にも状況を流している様子。

17:30 H/J 機に動きあり

8033 All Eng Run、Run Wayに移動、警備の兵士の動き活発になる。特別機に体当たりの可能性あり、脱出出来る準備をするようにとの連絡あり、緊張する。H/J機が空港消防車2台にRun Way上でブロックされ停止。

23:00 釈放犯解放開始

女性の釈放犯より解放開始

10.02 00:00 石井次官、特別機機内で釈放犯の一人奥平を説得。奥平機内で演説。

01:30 釈放犯全員解放終了。

05:00 特別機搭乗者降機

バスでターミナルへ移動、移動中駐機場で銃声が聞こえる。到着ロビーで待機。駐機場、空港内に銃声響く、兵士が銃を持ってロビー内に入ってきて伏せろと言う。全員柱の陰等に伏せる。隣の部屋で機関銃の発射音、一瞬ハッとする。駐機場に死体が転がっている、ロビーに血を流して倒れて未だ動いている兵士もいる。クーデターが起きているようだ。ロビーには日本人しかいないようだ。そのうち陸軍が反乱軍を制圧した模様。出発ロビーに移る。そこにスチュアードスがいた。皆元気な様子。移動中血を流して倒れている兵士を何人か見た。マームド参謀行方不明とのこと。空港内銃声がやみ平静になった。大使館よりバナナ、水の差し入れあり。

12:00 雨、市内平静に戻る。

東京とのHot Line活動開始。

ニューデリーKKMより応援に来多和田さんに会う。東京都連絡。

救援物資積み卸し認められず。何のために持ってきたのか。15時頃昨夜より初めての食事大使館より差し入れあり中華どんぶりの紙の箱詰め弁当、箸がない。箱の端を破ってスプーンにして食う。

大をもようしロビーのトイレに、清潔だが便器は無く、水がちよろちよろ流れているところにしゃがんでするらしいが、紙がない。水が入ったバケツが置いてあった、どう使うのか？戦意が無くなり中断。

16:00 人質約40人解放

接待に大忙し、皆元気の様子。パーサーのシャツが血に濡れている大丈夫かな。乗客も皆元気、機内での様子を話す乗客の話を頭を下げて聞く。

客室乗務員から預かっているパスポートを乗客に渡すよう何冊か預かったがアラビア語とかで読めないのを乗務員に返す。

19:00 酸素ボトルをH/J機に積んで欲しとの連絡あり

酸素ボトルを救援機に取りに行く必要あり、タワーは取りに行くことを許可したが危険を伴うので取りに行けず。

20:00 乗員H/J機8033に向かう

犯人側と乗務員の交代が認められ、桜庭、中村機長、松井機関士他客室乗務員2名大使館差し入れのおにぎりを持って出発するのを見送る。出発前桜庭機長緊張のためか持病の痔が調子悪いらしくトイレに走る場面あり。皆やや緊張のしている様子。全員空港を撤去せよとの連絡あり、H/J機の出発を見届けな

いで荷物をまとめてホテルへ向かう。

20:30 ホテル イン

ダッカ市内のインター・コンチネンタル・ホテルへ、なかなか国際的なホテルだ。H/J機に向かった客室乗務員は搭乗を拒否されて帰る。H/J機はすべての明かりを消して無事飛び立ったとのとのこと。やっとまともな食事にありつけるかと思いきや、ダッカで解放された乗客が食べた後のバイキングの残りまともな物はほとんど無かった。

22:00 Room in

シャワーで汗を流して床につく。H/J機のINS、HFは正常に作動してくれかナー？

10.03 06:00 起床

救援機はダッカで解放された乗客を乗せて渡橋に帰るか、H/J機を追うか未だ決まっていない様子、朝食後空港へ向かう、市内は平静で輪タクがたくさん走っている。

09:00 救援機の整備

救援機8031は故障箇所なし調子がよい。救援機をスポットに移動すべく交渉、早く移動する必要があるが、許可が出るまで2時間ほど待たされた。タクシングでスポットに移動。BI MAN AIRの協力で整備、燃料補給、救援物資の積み卸しを実施。

H/J機はクエートからダマスカスに向かったとの連絡あり。

13:00 救援機テヘランへ

救援機は支援を受けやすい、日航の寄航地であるテヘランで様子を見ることに決まり、残務整理のためJAL派遣KIの人達を残してダッカよりテヘランに向けて出発。

17:00 テヘラン到着

救援機故障なし。テヘラン駐在の市来君に会う。

政府団長石井事務次官、朝田社長以下首脳行く先を検討、救援特別機はとりあえずJAL寄港地ローマに行くことになった模様。大使館より弁当の差し入れあり。

20:00 テヘラン出発

テヘランからローマに向けて飛行中、H/J機アルジェで乗客全員無事解放のニュースが飛び込み、みんなでシャンペンで乾杯。機内の様子が一変、気が楽になった様子。アルコールのサービスも出るようになった。

アルジェリアとの交渉が出来、アルジェに行く先を変更。

10.04 02:00 アルジェ到着

駐機場の片隅にH/J機8033が駐機していた。その隣に救援機が駐機、故障なしを確認後、簡単な税関手続き後にホテルに向かう。

04:00 ホテル到着

真夜中のアルジェの街はH/Jなどとは関係ないように静まりかえっていた。ホテルに向かうバスの中、皆どこにつれて行くのか不安の様子、このまま監禁

されるのでは等冗談、心配の声も聞こえた。空港からかなり離れた地中海に面した、シーズンオフのリゾートホテルだ。客は一人もなく、水も出なく、トイレ、シャワーが使えない。ただ寝るだけ、次官とか社長の部屋はどうなんだろう？

08:00 起床、空港へ

ちょっととうとうとただけ、海岸に行ってみる。美しい砂浜の海岸は人気もなく静かだった。シーズンにはヨーロッパからの観光客で賑わうのだろう、大使館より差し入れのすしを食べてから空港に向かう。市内は車で混雑していた。11時空港到着。

パリ支店整備のマニエルが支援に来ていた。アルジェリアは元フランスの植民地だからフランス語じゃないとダメだ。

まず救援機の整備、燃料補給、キャビンクリーニング等。

H/J機8033 キャビンの中はすごい悪臭--クリーニング

L/H Nose Tax Light Broken--CHG

#1VHF Cont Panel Hard To Serect--Part 無しそのまま

エンジンオイル、燃料補給

作業は現地整備員が実施、整備員の一人が手真似でボールペンをくれと言ってきたので上げた。

14:30 アルジェ出発

H/J機8033はカラチ～バンコック～羽田、JAL寄港地経由なので角園氏担当。H/Jに会った高橋機長他乗務員が乗り込んで一路東京へ。

救援機8031はダマスカス～クエート～バンコック～羽田、相馬氏と私が担当。政府、JAL救援員、乗り込み出発。

18:10 ダマスカス着

H/Jダマスカスで解放された乗客十数名乗り込んで19時10分出発

22:10 クエート着

機体故障無し、燃料補給。クエートで解放された乗客23時10分出発

10.05 10:30 バンコック着

JAL寄港地だから整備はお任せ、駐在の松尾、新井氏に会う元気の様子。11時30分バンコック出発

20:30 羽田着

凄いカメラの放列。引き続いて21時30分頃H/J機到着。

21:30 解団式

オペレーションセンターで解団式。朝田社長よりねぎらいの言葉。

10.06 16:00 首相官邸招待

福田首相より表彰と記念品（タイピンとカウスボタン セット）、その後感謝パーティー。もてるのは乗務員だけ我らは蚊帳の外。

安藤 嘉道